



佐賀県公立小中学校事務研究会
編集発行人 森 清隆

会員各位

会員の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。11月の下旬に入って朝晩の気温の変化についていけず私（調査広報部長）も風邪を引き、鼻と咽がぐずついています。なかなか直りません。皆様も風邪など引かぬようお気をつけください。

第17回研究大会のアンケート結果の集計ができましたので掲載しております。今回も好評でしたが嬉しいご意見もいただきました。なお、理事会報告は、次週開催予定のため次号に掲載いたします。加えて全事研予算調査のご協力ありがとうございました。

第17回佐事研大会アンケート集計結果報告

11月9日、第17回佐賀県公立小中学校事務研究大会の際に大会アンケートを実施させていただきましたが、今回は皆様ご多忙のようでアンケート数が減っています。しかしながら、皆さまのおかげで集計ができましたのでご報告いたします。

第17回大会アンケート集計表

年代	20代		
	楨原様講演	研究発表	神谷様講演
大変よかった	3	1	1
良かった	0	1	2
普通	0	1	0
良くなかった	0	0	0

年代	30代		
	楨原様講演	研究発表	神谷様講演
大変よかった	16	1	11
良かった	8	18	14
普通	2	7	1
良くなかった	0	1	0

年代	40代		
	楨原様講演	研究発表	神谷様講演
大変よかった	9	0	4
良かった	11	8	13
普通	2	14	4
良くなかった	0	0	0

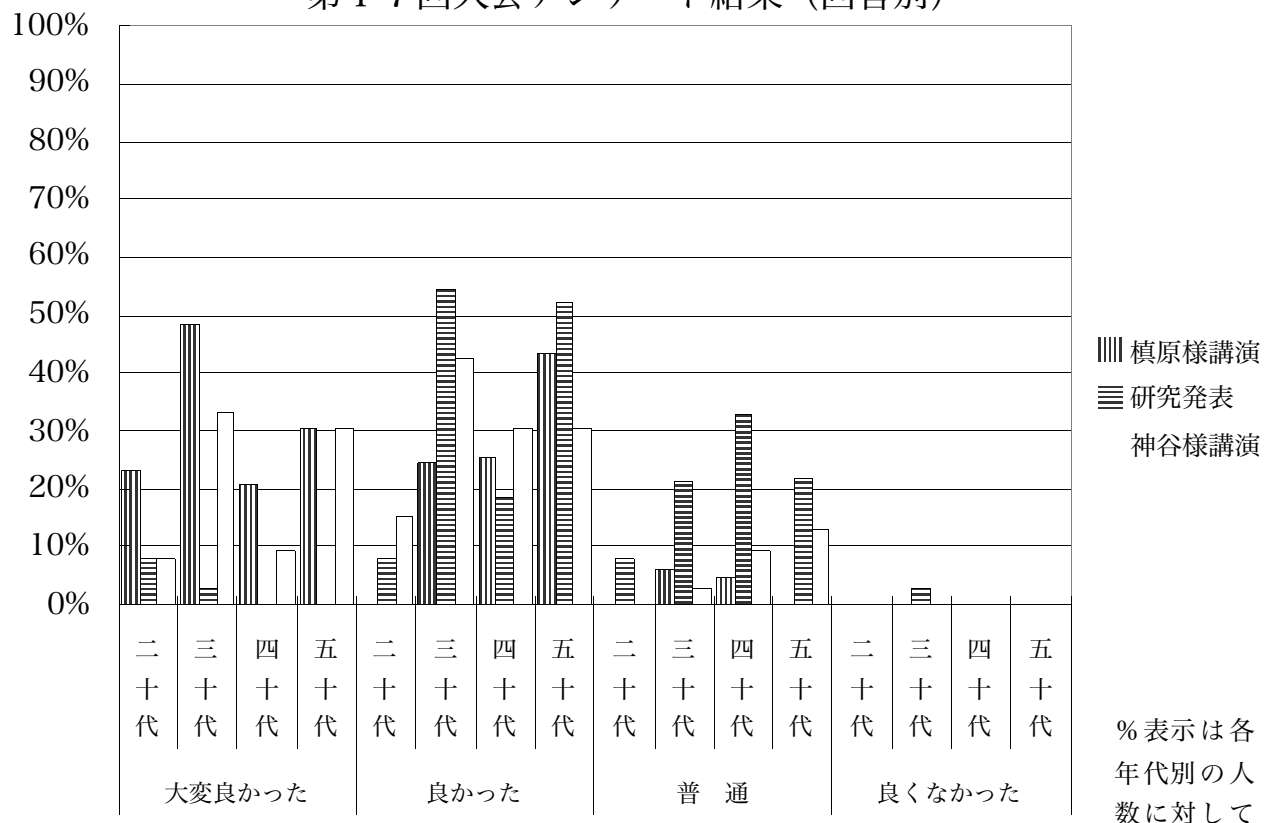
年代	50代		
	楨原様講演	研究発表	神谷様講演
大変よかった	7	0	7
良かった	10	12	7
普通	0	5	3
良くなかった	0	0	0

年代	合 計		
	楨原様講演	研究発表	神谷様講演
大変よかった	35	2	23
良かった	29	39	36
普通	4	27	8
良くなかった	0	1	0
合 計	68	69	67

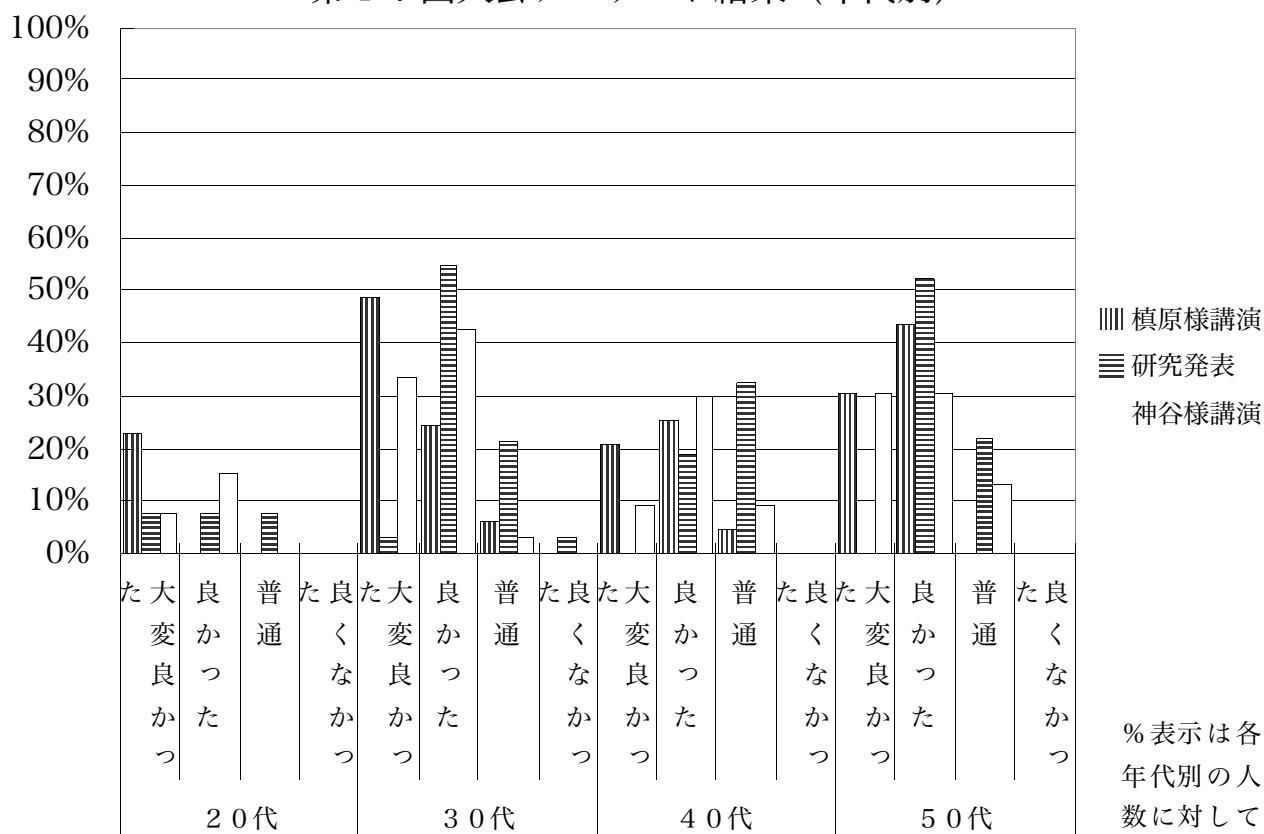
アンケート提出数	69
内数(県内)	68
内数(県外)	1
(一部無回答有)	

参加者数	213
内数(県内)	208
内数(県外)	5
回収率	32.4%

第17回大会アンケート結果（回答別）



第17回大会アンケート結果（年代別）



槇原様講演コメント

県内

20代：事務職員が学校職員の一員として、どのように関わっていけるかということに非常に参考になった。

30代：堅苦しくなく、庶民的な方で聞きとり易く良かったです。

30代：教員の立場、行政の立場、双方からの立場でのお話でとても分かり易かったです。

30代：学校で何が行われているのか。教育の課題等がとてもよく分かりました。事務所の方が学校事務のことをよく理解してくれていて、心強く感じました。もっと話しがききたかったです。学校の中で、事務職員ができることを考えさせられました。

30代：中学校の教育現場のお話し等、とても面白かったです

30代：具体的な先生達の悩み、考えを聞けて良かった。

30代：シミュレーションの対処方については、現場でいつ起こってもおかしくない項目でありおもしろく語っていただき為になった講演でした。

30代：すごく身近な話に思えて共感できるものがありました。

30代：肩肘はらないお話で、適当にユーモアを交え非常に聞きやすかったです。教員と事務職員が一つになって学校運営に関わっていかなければならないことを強く思いました。

30代：雷から身を守る話がためになった（外だと電線の下が良い）。ADHDへの対応は学校全体で取り組む課題と思った。共感、共有、協議は同職場での連帯感や活動の必要を感じました。

30代：仕事で大変遅刻してしまい、ほんの少ししか聞けなかったのがとてもとても残念です。

30代：教員、事ム職員、ともに意識改革をして、子どもたちのために頑張っていければ・・・。

30代：時間内で（！）、適確に、教育の諸問題や改革の動向をユニークに、分かり易くお話し頂きました。

30代：ちょっと事務職員をほめすぎと思った。

40代：学校全体でひとつになって頑張ろうという思いや意気込みが感じられ、私たち事務職員も一員となってやっていかなければと思った。

40代：学校事務職員が学校にいる意味を私達それぞれが考え、教職員として学校内外と連携してより良い学校を作っていけたらと思います。

40代：危機管理に対する備えの必要性を感じた。シミュレーションはいい演習だった。話もおもしろかった。

40代：事例が多く、話が聴き易かった。多様化する保護者への対応の大切さを感じた。

40代：豊富な事例を交えて現場の問題点から教育改革の方向性までわかりやすく説明していただきました。

40代：話も楽しく、内容もあってよかった。

40代：ユーモアあふれ、わかりやすかった。学校にいることの意味、教職員との連携の大切さを考えさせられた。

40代：指導主事個人としての事務職員への理解が事務所内学校内へと広がればと思います。

40代：教員から見た学校事務の姿がユーモアを交え楽しく聞け、改めて考えさせられた。

50代：資料をたくさんの方で見ていたこと。今学校教育で問題になっていることを、これだけ体系づけてのせていたこと。

50代：教職員が一丸となってよい学校を作っていく。何か、より、やりがいが出てきた。

50代：学校現場が大変忙しく、思うように教員と意志の疎通がはかれないが、努力していきたい。

50代：学校現場の教員の話聞くのもたいへんいいと思う。

50代：学校事務の仕事内容は、学校内勤務の経験しかない教員には分からないのだな、行政の経験のある教員じゃないと。

50代：堅苦しくなく、共感を持って飽かずに聞けて良かった。

50代：教員関係の研修会等にも話をしてほしい（同内容の）。

50代：具体的でわかりやすく良かったです。校内研修等に積極的に参加していきたいと思います。

50代：教育界が大変なスピードで大きく変わってきているので、先生達も大変だと思う。私達もいかに協力できるのか考えなければならぬと思った。

50代：良かったが、もう少し教員（又は事ム所からの）からの要望をききたかった。事務職員をヨイショする（ありがたいが）話はもういいかなと思います。

50代：事務室と教育目標・教育内容へのかかわりで参考になった。

研究発表コメント

県内

30代：不透明な状態の中、各地区代表の方は分かり易くお話されていました。

30代：参考になった。

30代：市町村合併を控えた地区はどこも合併ぎりぎりまで全体像が見えない（決まらない）という現状がよくわかりました。

30代：合併へのとりくみ、経過がわかりました。

30代：研究内容が乏しい。最近はほとんど同じような取組みを行っているので抽象的な部分より具体的な行動を起こしその成果、失敗談を盛り込んだりして、聞く側に興味を継続させるよう努めるべきだった。

30代：いまいち抽象的な話が多く、やや具体性がかけておりわかりにくかった。

30代：唐松、小城、三養基地区の合併の話ですが、各町の教育委員会が合体した上でのメリットに期待したいところです。

30代：各地区、大変だけど、いろいろ整ってきていると思う。やはり最初が肝心と思う。

30代：現在の勤務校は、合併とは直接関係はありませんが、参考になった。しかし、いざその時にならないとわからないことは多いですね。

30代：他地区の取組みがよくわかった。

30代：合併に関する手さぐり状況の中、財務、予算案、事務補・司書補問題の取組みが勉強になりました。

30代：各地区の個別の内容であり、深く理解はできなかった。

40代：途中段階ということもあり、内容としては中途半端なものだったかなと感じた。

40代：各地区の合併に向けた苦労は分かった。しかし、事ム職員の地位向上の為の行動の際の重点ポイントをもう少しはっきりして欲しかった。

40代：各地区の苦労がよくわかりました。

40代：もう一つ具体性が見えなかった。

40代：来年合併後にもう一度話がききたい。

50代：各地区の取組みをきくことができたこと。

50代：もう少し具体例があった発表が欲しかった。

50代：合併を機会に人的（司書・事務職員）法令的（財務取扱要領）を整備取組みに感心しました。重要な人的整備とお願いは熱意をもってやられたことを参考にしたい。

50代：合併の実体がないので、でも、そうなると大変だなと思う。

50代：合併先進地区の事務職員の取組みが良くわかった。

50代：三地区の様子を知る事ができ良かったです。次回は合併後の問題点の状況を発表していただきたいと思います。

50代：合併までのそれぞれの取組みの方法について理解できた。

神谷様講演コメント

県内

30代：現状の動向が理解でき、非常に良かったです。

30代：年に2回の大会で、毎回時勢に添った講師の方を呼んでいただいてありがとうございます。

30代：細かいところまで丁寧に話をしていただいて大変勉強になった。

30代：豊かな経験、知識、取組みの多様さ、申し分ない内容を折りまぜた講演は、同じ学校事務職員としての将来のあこがれ像であろう。

30代：国や他県の事務職員をとりまく情勢をわかりやすく説明していただき、大変ためになった。

30代：共同実施の制度化、事務長制をきいて、事務長の管理職制の話はうなづけるのではないのかと思う。

30代：義務教育国庫負担制度を狙っている政治屋さんにも、お話をきけたらなあと思いました。いろいろな動きがあっても、テレビや新聞には出ない事を痛感しました。

- 30代：現状の事務職員状況がよくわかりました。
- 30代：義務教育費国庫負担制度堅持という焦眉の課題について臨場感と危機感とを感じました。
- 30代：今必要な情報、今後の方向性を考える助けとなる。
- 40代：中央の詳しい情報がきけて良かったと思います。ただ話が少し長いです。疲れました。
- 40代：真新しい内容はあまりなかった。
- 40代：具現化する話としては難しい内容であった気がする。というのは、共同実施によって事ムの組織化を図る時にまだまだ自分の枠内だけに動こうとしている人達が多い気がします。
- 40代：神谷さんの話を聞いて本当に良かったと思います。
- 40代：具体的な中央情勢でよかった。少々制度的希望もうかがえた。
- 40代：中央の情勢がきけたのですが・・・はつきりいって途中からついてけなかった。
- 40代：どうも全体像が頭に入っていかなかった。
- 40代：生の声を聞け、情報も新しく参考になりました。
- 50代：義務教育国庫負担制度も変わっていく公務員制度改革の件で、能力給が導入され大変な時代を迎えることを痛感する。
- 50代：事務職員のマネージメントの重要性がわかった。事務職員の権限強化に対する努力がうかがえた。
- 50代：社会情勢を伝えてもらったのはよかったが、少しむずかしかった。
- 50代：学校経営に参画する学校事務職員であるための考え方は大変参考になりました。
- 50代：共同実施に疑問を感じる。単なる組織化だけの気がするし、教員、教委の理解も得られないと思う。
- 50代：もう少しこれからの情報が手に入られると期待しすぎた。いったい、いつになったら展開が（今後が）分かるのかな？一つにしぼって事例紹介が良い（全国の）。
- 50代：今一番知りたい事が聞けて良かった。
- 50代：タイムリーな内容、又、ウラ話的なものがきけて良かった。
- 50代：全国情勢をコンパクトにまとめた報告、大変参考になりました。

その他コメント

県内

- 30代：会場は今後ずっと会場はアバンセがよいと思います。駐車場などの周辺施設、公共交通機関を使って今日ここまでできましたが車を使うにしろJRにしろ、放送施設、照明、座席等でもアバンセに勝る施設は県内では他にないと思います。
- 30代：こういう研究大会に参加するようになって、その度ためになったと感じる所は教育長や神谷会長などの講演が非常に自分の日々の職務意識を見直すきっかけになり、今後の意識改革、自己啓発につながっていく。講演の充実に負けない研究発表の質の向上が達成できればよりよい佐事研大会になるだろう。
- 30代：いすが固く、尻が痛くなった。もう少し快適な環境で会を持てないものか。
- 30代：学校事務として学校で勤めて管理職と勤務（判読不明のため推量）する上で、情報の収集、伝達、を円滑にする努力する中で、堅い話ばかりもジョークばかりもいけない。バランスのちり方って難しいと日々悩みます。
- 30代：会場が暖まりすぎ。少し肌寒いくらいがちょうどよいと思います。
- 30代：今日は、熱い意見を聞けてよかった。
- 40代：冊子はもう少し早く配布できないか。
- 40代：長時間、座っているのがしんどい。講演が2つもあるのは、ハード（遠慮なく書きました）。
- 40代：会場が暑かった。終わる時間は守ってほしい。講演ばかりなので1日座っているとつらいです。講演をいくつかする場合かたい内容ばかりでなく、教養的なものも入れた方がよいかと思います。
- 40代：午後だったためか神谷会長の講演は、いねむりしている人が多く、これははるばる遠い所から来られた講演者に対してとても失礼だし、恥ずかしいことだと思う。
- 40代：この忙しい中、丸一日つぶされるのかと少し欠席したい気がしたが、内容は思ったよりよく、出席してよかった。初心（足元）を再見できた。（全体として出席者が少なかったように思えたが・・・頑張って出席しよう！！）

40代：今年は空調がうまくいってないようだ。空気が入替ってなく息苦しい感じがした。

40代：会場が暖かく汗をかく。エアコンがきかないようなら扉を開けて空気を入れるなど工夫をする必要がある。

50代：聞くことばかりで少しつらい。いくつかの分会を作り意見交換をすることもよいのでは。

50代：いつも思うが約4時間半、椅子にすわったままで、大変つかれる。もう少し運営方法を考えてみられたらどうか。

50代：昼食の弁当が大変良かった。

50代：いままで、全体方式が多いが、時には分科会方式もOKでは。一部の人ではなく、点を線に線を面に多数の人の意見をすいあげ育てるため分科会形式も検討してください。

50代：全体的には余り事務職員は良い方向に向かうのかなと思った。

50代：91ページと92ページが同じものが掲載されてるようです。第3条のところが違う？

50代：神谷会長の話の感想だが、研究組織と職員団体（組合）と連携していかないと自分達の思ってもいない状況になってしまうのではないかと感じました。事務長制ができたけど、事務長になったのは義務制からでなく県立や知事部局からという話をききましたので（義務制の事務職員に実力がなかったのかも知れないが・・・）。

～唐津くんちについで～

佐賀県を代表する秋祭りとして思い浮かべるものに「唐津くんち」は欠かせないだろう。11月2、3、4日に行われ、見物客も年々増加しており、毎年50万人を越える人たちが「唐津くんち」にやってくる。

「唐津くんち」は唐津市南城内にある唐津神社の秋祭りである。「くんち」とは「供日」からきた言葉で、神様に供えるという意味である。つまり、五穀豊穰を祝う秋祭りに神を迎え供え祝福を受け、繁栄を祈る。

11月2日から3日にかけての深夜、神社で神様がお神輿に移られるお宮移しが行われる。そして11月3日に、お神輿を間に江戸末期から明治初期に作られた和紙を何枚も張って漆で塗った（1閑張）華麗な漆の曳山（山車）をお供に町内を巡行する（神幸祭）のである。そして人々は神の祝福を受ける。

「唐津くんち」は、元来は旧暦の9月29日を中心にして催されていたが、やがて月遅れの10月29日に、さらに昭和43年から現在の11月2、3、4日に行われるようになった。

11月2日の宵曳山から「唐津くんち」は始まる。夜の帳のなかで、提灯の灯りが漆塗りの曳山を浮かび上がらせ、見る人を鮮やかさと幽玄な雰囲気包み込む。その後、2日から3日にかけての深夜、神社でのお宮移しを経て、3日午前5時早朝からカブカブ獅子の舞が行われる。カブカブ獅子は、唐津神社と特別な関係にある神田地区の青年が、神前にて雄獅子、雌獅子の獅子舞を奉納する。獅子に子どもの頭を噛んでもらうと邪気が払われて、健康を祈願できるとされている。3日午前9時30分から神輿を中心として前後に曳山が従い、西の浜明神台（お旅所）までのお旅所神行が始まる。これは、神社の神輿を奉護して曳山が町を巡るのである。つまり、神様がふだんいらっしゃる御殿から出て、神輿に乗った神様を守るようにして曳山が行くのである。そしてお神輿はお旅所に行くのだが、お旅所とは、唐津の神様が顕れたところということで、これが西の浜ということになる。このお旅所である西の浜で「唐津くんち」の最高の見所といわれる、お旅所への曳き込み、曳き出しが行われる。14台の曳山が勢ぞろいするのだが、下が砂地なだけに、車輪が沈んでびくともしなくなる。力を合わせないと曳き込みも曳き出しも容易にはいかない。曳子の力の見せ所である。最終日4日は町廻りで、この日は前日のお神幸とほぼ同じ巡路で、旧城下の東西約8キロを回る。ただし、神輿は出ない。この町廻りで「唐津くんち」は終わる。これで今年の曳山の曳き納めとあって、曳子は最大の力をふり絞って曳き、見物客は力いっぱい声援をおくる。そして、曳山展示場に14台の曳山が格納されていく。いつまでもいつまでも名残を惜しむ掛け声が続き今年の「唐津くんち」は幕を閉じる。

昔ながらの伝統や文化が廃れてきている現代において、「唐津くんち」には、これからも歴史を塗り重ねていくという力強さを感じさせるものがある。

参考文献

えんや・写真集唐津くんち（家の光協会） えんや！曳山が見た唐津（無明舎）

唐津くんちの歴史（唐津市教育委員会文化課資料）

私達のあちこちにも電磁波の恐怖が・・・

皆さんは電磁波という言葉聞いたことがあるでしょう。最近は健康に害を及ぼすかもしれないという事で学校では保健の先生なんかが研究したり発表したりしてますね。電磁波とは、電気と磁気が相互に発生するエネルギーの波のことで、大きくは放射線、太陽光線、電波、電磁界の4つに分けることができます。電磁波の中で、太陽光線より波長の短いものを放射線といい、ガンマ線やエックス線がこれに該当します。また、太陽光線より波長の長いものを電波といい、波長の長さに応じて極長短波、短波、中波、長波などと分類されます。・・・と長々と説明してみましたが、このなかで健康に害があるらしいと言われているのは送電線や一般の電化製品から放射される極低周波の交流電流から発生する磁界と、携帯電話や電子レンジから放射される極長短波だそうです。何の健康に害があるのかというと、周波数の高い放射線を大量に浴びてしまうと、そのエネルギーの大きさからDNAなどの遺伝子を傷つけることや、太陽光線の紫外線も大量に浴びると肌が黒くなり次第に皮膚を傷め、やがては皮膚がんになるそうです。

では実際に、学校備品として置いてあった電磁波測定器を使って事務室を中心に身の回りの電化製品を測定してランクで表示してみると・・・（A（電磁波強い）～E（測定器の針ふれない））の順で、

パソコン・・・C（微量レンジの測定なら針ふれる）。すでにどこにでも浸透してしまい事務室に多数置いてある所は電磁波だらけのイメージがありそうだが予想と少し違った。ただパソコンといってもノートパソコンは液晶画面の為か殆んど針はふれなかった。電磁波が強かったのはテレビ式モニターの前面と左右。あとメインサーバー本体が働いて熱を外に出した時。案外パソコンよりもモニターの方が電磁波の要因になっているのかも？プリンターはページプリンターのみ針がふれインク式の反応はなかった。

コピー機、印刷機・・・B（広範囲レンジでも針ふれる）～C。コピー機なども電磁波が強く複写する時のスキャナーの光がもろに体に悪い感じ。興味を引いたのは同じコピー機でも測定の結果差があったこと。五年前測定した旧型機よりも省電力を謳い、スキャナーの光が外に漏れないよう工夫した物はあまり針がふれなかった。印刷機も高性能モードにしたら幾分針が強くふれたみたいだった。

蛍光灯・・・C。蛍光灯も光を外に放射しているのだから測定器に反応するのだが、その範囲は50cm四方くらい。従って机上スタンド以外は体を近づけなければそんなに影響ないのかもしれない。

電子レンジ・・・A～B。予想通り針はパツとふれる。それも高出力にしたら1m四方くらいの範囲は測定器に反応する。食べ物の出し入れ以外は近づかない方がいいみたいである。参考に自宅にある古い電子レンジを測定しても反応はほぼ同じ。電子レンジが普及して20年以上なるが電磁波対策はあまり考えていないみたいである。

携帯電話・・・A。以前携帯電話の電磁波はかなり強いと聞いたことがあるが、ランク表示をしたらAを飛び越えて特Aにしたいくらい強く、測定器の微量レンジでは器械が壊れそうで怖くて測定できなかった。

身近な電化製品では最も強く反応し、広範囲レンジの測定で2mくらい離れてもまだ針はパツとふれる。

携帯電話はもろに体を近づける為、健康には真っ先に影響してくるのではないだろうか？こんな小さな物が電磁波が強いなんて想像もつかなくて、世間で健康に害があることが話題になったら、とても長電話なんてできなくなるかもしれない。

と、以上事務室の近くにあった電気製品で電磁波を測定してみましたが、これ以外にも例えば電磁波調理器とか太陽光発電を備えたオール電化の家なんかも調べてみたかったと思います。結果的にわかった事は私達は便利さと引き換えに健康とか環境とか別の何らかのもので代償を受ける事が多いということです。

電磁波測定器は高価で購入するのに1台数万円もしましたがもし学校にあるようだったら皆さんたち自身で一度確かめてみてはいいかでしょうか？

☆☆☆ 運転中の携帯電話は危険です！！ ☆☆☆

みなさんご存知だと思いますが、平成16年11月1日に道路交通法が改正され、運転中の携帯電話使用が罰則の対象となりました。その内容は反則金6千円（普通車）、基礎点数1点付加となっています。今まで、携帯電話等の使用などについては禁止規定が設けられていましたが、罰則については違反行為によって道路における交通の危険を生じさせた場合に限られていました。

今回の道路交通法改正の背景には、平成11年に運転中の携帯電話等の使用について禁止規定を設けた改正道路交通法が施行され、施行直後の平成12年には、携帯電話などの使用にかかわる交通事故件数が大幅に減少しましたが、その後は増加に転じ、平成15年は平成12年の約2倍となり、更なる対策が必要となったことがあげられます。

この改正のおかげで非常に売れているのが、ハンズフリー商品です。あるショップでは改正前の9・10月で前年比3～5倍の売り上げを記録したそうです。ではハンズフリー商品を使って通話していれば安全に運転できるのでしょうか？

長野県の話ですが、運転者がハンズフリーの状態でも携帯電話を使用中に起こした人身交通事故が今年1～8月末で26件に上り、携帯電話を手にして使用して起こした事故の件数（20件）を上回っていたそうです。9月に入ってからでもハンズフリーで通話中のトラックの運転手が、前方不注意により、停車していた乗用車に追突、乗用車の運転手にけがをさせた事故が発生しています。

立命館大学の飯田健夫教授によると、ドライバーの携帯電話に外から電話し、簡単な質問に答えさせる実験で、答えている間は視点がほぼ固定され、視野内の信号への反応も遅くなることが分かっています。同教授は「ハンズフリーでの実験はまだしていないが、ハンズフリーでも運転中の通話は眼球運動や判断能力を低下させ安全運転に支障をきたすと考えられる」と話しています。

また、英国の保険会社の実験では、ハンズフリーでの携帯電話の通話時は酒気帯びよりも速度や前方車両との距離を一定に保つことが困難になり、多くの警告標識を無視した・・・との結果も出ています。

どうやらハンズフリーを使用したとしても、運転中の携帯電話の危険性は変わらないみたいですね。運転中の携帯電話は、ドライブモードにしておくか、安全な場所に車を停めて通話するようにしましょう。



※電磁波や運転中の携帯電話には充分お気をつけください。

それでは皆様良いお年をお迎えください。

調査広報部一同